

○第1部：基調講演・事例紹介

基調講演 「Functional Recoveryから考えるレジリエンス：「寄り添う」復興の力」



井内 加奈子

東北大学災害科学国際研究所 准教授

筑波大学、コーネル大学、イリノイ大学アーバナシャンペン校で学び、開発コンサルティング会社や世界銀行などでの勤務を経て2013年より現職。自然災害や気候変動に対する地域社会の持続的な適応をテーマとし、主に災害後のレジリエントな復興を目指した、計画の実践過程や行政・住民のガバナンスの在り方、移転・再定住の普遍的な枠組みの、縦断的研究を行っている。近年は、日本・フィリピン・インドネシア・フィジー・トンガ・米国などの被災・復興地域を主な対象として活動している。

事例紹介

<石川県珠洲市>



橋本 禪

東京大学大学院農学生命科学研究科 教授

マサチューセッツ工科大学、国立環境研究所、京都大学での勤務を経て現職。農村計画学・ランドスケープ計画を専門とし、生態系サービスの可視化評価、土地利用変化シミュレーションと組み合わせた生態系サービスの将来予測に取り組んでいる。日本の里山・里海評価、生物多様性及び生態系サービスの総合評価(第2～4版)、生物多様性および生態系サービスに関する政府間科学-政策プラットフォーム(IPBES)によるアセスメントなど多くの国・内外の環境評価に携わっている。石川県能登地域にはこれまで連携研究等で携わり、現在は珠洲市復興計画策定委員会の委員長を務めている。

<福岡県久留米市田主丸地区>



吉弘 辰一

田主丸未来創造会議 副会長

1952年福岡県生まれ。工業高校にて航空機学を学びその後YS11製造に従事、造船設計に転向し、27歳で木材市場での経験を生かして製材木材産業に転身今に至る。客観的な視点から木材林業界の資源循環利用に関する在り方や提言を述べると共に、自らが経験した災害体験に基づく里地住民と里山との途切れた対話線の復活こそが自然災害防止につながる事を提言し続けて自治力復活による防災減災を唱えている。

<宮城県気仙沼市>



小野寺 憲一

気仙沼市震災復興・企画部 部長

宮城県気仙沼市生まれ。2011年3月の東日本大震災で自宅は全流失。震災後、保育所の再建、仮設住宅入居調整、震災関連死認定等の業務に当たる。2012年度から震災復興・企画課。復興計画の推進とともに地方創生も担当。2015年度に移住者や子育てママの参加も得て「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を官民協働で策定。市民が主役のまちづくり「気仙沼まち大学構想」を実践中。2014年以降、大学等でゲストスピーカーや非常勤講師も務める。

○第2部：パネルディスカッション

<モデレーター>

星野 智子

一般社団法人環境パートナーシップ会議(EPC) 代表理事



環境、パートナーシップ、SDGsをテーマに、対話の場づくりなど協働推進、市民活動・CSR活動の促進に携わる。「国連持続可能な開発のための教育(ESD)」や生物多様性保全の推進、SDGsに関する講演、ワークショップなどを多数行っている。現在、一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク、一般社団法人海外環境協力センターの理事などを務める。

○総括

武内 和彦

公益財団法人地球環境戦略研究機関(IGES) 理事長/東京大学未来ビジョン研究センター 特任教授/国連大学サステイナビリティ高等研究所(UNU-IAS)客員教授



1951年和歌山県生まれ。74年東大理卒、76年同農院修士修了、農学博士。東大アジア生物資源環境研究センター教授等を経て、97～2012年東大院農学生命科学研究科教授。08～16年国連大副学長/上級副学長。12～19年東大サステイナビリティ学連携研究機構長・教授/特任教授。16年～国連大サステイナビリティ高等研究所(UNU-IAS)客員教授。17年～地球環境戦略研究機関(IGES)理事長。19年～東大未来ビジョン研究センター特任教授。